

令和元年 網走市議会
新庁舎建設特別委員会会議録
令和元年12月13日(金曜日)

○日時 令和元年12月13日 午後1時01分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 新庁舎建設に係る調査研究について
2. その他

○出席委員(8名)

委員長	近藤憲治
副委員長	川原田英世
委員	石垣直樹
	栗田政男
	立崎聡一
	永本浩子
	松浦敏司
	山田庫司郎

○委員外議員(1名)

議長	井戸達也
----	------

○傍聴議員(3名)

金兵智則
澤谷淳子
古田純也

○事務局職員

事務局長	大島昌之
次長	細川英司
総務議事係長	高畑公朋
総務議事係主査	寺尾昌樹

午後1時01分開会

○近藤憲治委員長 それでは御苦労さまです。

ただいまより新庁舎建設特別委員会を開会いたします。

まず初めに、本日の進行でございますが、お手元に配らせていただいております「本日の進行」というペーパーを御参照ください。

本日は、前回までの御議論をもとに進行させていただきますが、まず最初は理事者への資料要求をしておりましたものについて、資料の提出がなされておりますので、こちらについて配付をさせていただ

いております。

具体的な内容といたしましては、都市計画の変更、いわゆる用途変更に係る事務手続の流れ、そして網走商工会議所から網走市に提出されている要望書。網走中央商店街振興組合から網走市に提出された要望書。最後に、網走市新庁舎建設基本構想策定検討委員会で行ったアンケートの結果のまとめでございます。

確認をお願いいたします。

この1-1の用途変更に係る事務手続の流れ、変更手続の流れでございますが、補足で米印に記載されている部分も御確認を願います。

事務手続としては、最短でもトータルで8カ月以上でございますが、前段で基本設計、用地測量、それから利用団体や住民の合意等が必要なのですけれども、そこには別途期間を要するのですが、具体的なスパンについては明確なことは言えないということで、そもそもそれがあってから最低8カ月以上ということですのでという資料でございますので、よろしくをお願いいたします。

それから2番目が当委員会による中間報告について、そして3番目が一連の建設用地に係る調査を経た上での現段階での各委員の皆様の見解について、4番目が若年層、特に20代から40代の市民向けアンケートの実施素案について、最後にその他でございますけれども、前回の特別委員会で御提案をいただきました美幌町役場での低環境負荷の設備導入に係る補助金の活用についての視察の是非について、各委員の見解をお伺いをいたします。

それでは、2項目めは当委員会による中間報告についてでございます。

こちらについては、正副委員長である程度考えをまとめてということで、前回、お話をいただいているところです。

現状のこの特別委員会のこれまでの議論の経過でいきますと、前回お配りをさせていただいた論点まとめシートでも記載されてはいますが、桂町球技場と潮見の除雪センターについては、用地については不適であるという共通認識がございますけれども、それ以外については用地についても、また機能面についてはほとんど議論がなされてお

で、なかなかその中間報告を12月議会または3月議会で…ということなのです。

12月議会は今やっていますので、この流れでいくと3月議会にやるということだと思うのですが、なかなか明確にこうですということを報告するような状況には至っていない現状であります。

では、どういう内容を中間報告でやっているのかということで、他の自治体等も調べてみたのですが、前回も少し御説明をいたしました。例えば用地についてはさまざまな見解があるのであれば、両論併記のような形で、また例えば機能面で最低限これだけはしっかりやってほしいという部分がありますとか、あとは財政面から見てこういった予算規模は留意してほしいでありますとか、そういった形で抽象的な部分もあるのですが、共通認識ができた部分に関しては、中間報告または最終報告という形で出されている自治体が幾つかあるという状況でございます。

です。中間報告を行うということについては前回合意をいただいております。12月議会ないし3月議会ということですが、現状からしますと3月議会ということになるかと思っております。

そういった点で、各会派または各委員の皆様からお伺いをさせていただきたいのは、中間報告をどういった内容で行っていくのかということで、今お話をさせていただいたように用地についての共通認識はなかなかないという部分であれば、機能面や規模の面でも幾つか意見が出るかと思うのですが、最低限こういうことは留意をして新庁舎の建設に向かっていくべきだというような部分での共通認識ができた場合には、中間報告に盛り込んでいくということも一つできるかなと考えておりますが、そのあたりについて各委員の皆様から見解をお示しただきたいと思っております。

いかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 今、委員長から説明をいただきまして、基本的には理解をさせていただきたいと思っております。

それで、ただやっぱりまず建設予定地が決まらないことには、これからやっぱり少子高齢化そして人口減少含めると、コンパクト化とかいろいろなその規模の問題とか、どういう機能を持たせる庁舎かという議論も確かに並行していくべきなのかもしれませんが、建設予定地によっては高層になるのか、何階建てになるのか、敷地面積の利用によっては

1,000平米という7階建て、9階建ての話もありますけれども、1階が約1,000平米弱ということで今議論がされているのだと思いますが、その下の面積がまた大きくなることによって、いろいろな機能というのは変わってくる要素があると思うので、私としては中間報告、ことしは今回が特別委員会としての最後だと思っておりますが、3月議会に向けてということになれば、1月、2月という期間のある中で、どういう議論をしていくかという一つの方向性を持つことも一つだと思いますが、今の段階で話すのであれば、やっぱり建設予定地についての中間報告は、この今特別委員会で一つにはもちろんまとまらないと僕も思いますけれども、各会派の意見ということにまとめるのか、各委員の名前を出して書くのかはこれはまた議論ですが、いろいろな議論がありましたということの報告でも私はいいかかなと思っております。

ただ、ばらばらと羅列してこんな意見がありましたということにはなりませんから、私としては、会派としてもし一つの方向にまとめれば、今の段階で話せる程度でいいと思っておりますけれども、その辺の見解含めて、報告として出すべきかなと思っております。

そこで、二月ぐらいの時間の中で、例えばコンパクト化とか、そういうことはどこに建てようが考え方としては共通ですから、そのことで何点か、どこに建とうがこれだけは言えるなということがまとめれば、それもつけていくということも一つかなと、こんなふうな今の段階では考えています。

○近藤憲治委員長 ありがとうございます。

今、山田委員から御提案いただいた部分に関しては、このあとの3項目めで建設用地に係る調査を経た上で、各委員の所見を出していただいて、その上で共通認識である部分はあると、そしてまだ見解の隔りがある部分は、隔りがあるという形で整理をしながら進めていきたいと思っております。

○松浦敏司委員 私も基本的には山田委員と同じように、やはり場所というのがやっぱり決まらなないと物事が進んでいかないという点では、この部分が非常に大事な部分なのだろうということ、あといずれにしても災害に対してどんな建物が必要なのだということも当然出てくるだろうというふうに思いますし、いずれにしてもそういった形で場所がどうなるかということです。

ただ、今のこの特別委員会の中でもなかなか意見が合わないというのも現状なわけで、その点では3月議会までに一定の中間報告を行うという点では、

私もそういう方向でよろしいかなというふうには思います。

○近藤憲治委員長 そのほかの皆さんいかがですか。

○立崎聡一委員 中間報告についてなのですけれども、これは12月か3月というお話があって、12月はもうちょっと厳しいというのは、もう皆さんよく理解されていると思います。

そこで、3月に向けてどうするのかという話だと思います。中間報告をすることに関しては、もうそれは当然であるなというふうに理解はしております。

今、山田委員、松浦委員がおっしゃっていた中身で、やはり共通認識というのはやっぱりある程度大事なのだろうなというふうに思います。

ただ、まとまらないのだろうなというのは、当然これはあってしかるべきなのだろうとは思いますが。

ただ、その場所が決まらなると、例えば中身の使い方ですとか、それから市民のアンケート結果ですが、まだちょっと中身を見てないのですけれども、どういう要望があるのかというのも、きちっと精査していかなければならないなというふうには思います。

そんなことを含めて、まず3月には中間報告をやると、ただ場所については多分まとまらないで終わるのだろうなというふうに思います。

皆さんそれぞれいろいろなお考えもおありでしょうし、それからもちろんコンパクトに、もちろん使いやすく、そして山田委員がおっしゃったように床面積の部分というのはもちろんあるのでしょうか、最低限やはり共通認識の中で、今後どういふふうな庁舎にしていかなければならないのか、またしていきたいのかというのは、やはりそこはそんなに大きな隔たりはないのかなというふうに、僕は個人的には思っているのですけれども、最終的には場所の話にはなと思うのですけれども、個人的にはそういう見解を持っております。

○近藤憲治委員長 ありがとうございます。

○永本浩子委員 中間報告ということで、12月という話もありましたけれども、ちょっともう現実的には難しいという状況で、でもやっぱりせかくこの特別委員会をスタートしていろいろと協議を重ねてきたわけですから、きちんとした形で中間報告を出すべきだと思いますし、その機会としては3月議会が適当なのかなと思っております。

用地に関しても、本当に特別委員会として一つにまとめることができれば、それにこしたことはなかったのかもしれませんが、どこも一長一短がありメリットやデメリットがさまざまある中で、結局ここまで話がまとまらないままに来ているということで、もし今のこういう状態を延々と続けていっても、果たしてそれがどれだけ価値があるのかなというふうに考えると、もし本当にまとまらなければ、それぞれの会派できちんと一番ここがいいと、こういう中では一番ここがいいのではないかなということは、きちんと言わせていただく形で進めるべきではないかなと思っております。

本当に高層になるのか、そうではないのかによっても違うかもしれませんが、例えば市民に対して安心面である防災機能でありますとか、ユニバーサルデザインの導入とか、バリアフリーの件だとか、あとは使いやすさとかそういった部分というのは、高層であっても、そうではなかったとしても、大切な部分というのはきちんとして提示はできるのではないかなと思いますので、そういった機能面に関する内容を特別委員会としては、まとめてきちんとして中間報告できる方向に持っていくべきではないかなと思っております。

○近藤憲治委員長 ありがとうございます。

そのほか中間報告に向けての見解はよろしいですか。

おおよそ用地については、見解に隔たりがありながらも、それぞれの考え方をしながら、また永本委員や立崎委員からの発言にもあったように、機能面で最低限これは必要でしょうと、例えばそれはどこに建てるにしても、どんな規模感でも、ここは留意すべきでしょうという部分があれば、そこも盛り込みながら中間報告に向かっていくというような考え方で進めさせていただいてよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、そのように進めさせていただきますので、3項目めに入らせていただきます。

一連の建設用地に係る調査を経た上での各委員の所見について、それぞれ御発言をいただきたいと思っております。

お願いいたします。

○松浦敏司委員 まず、先ほど委員長も言われたように桂町のところについては、これはどう見ても道路のいわゆる交通アクセスを見ても、道路の大幅改修をしなければできないということなので、ここは

まず無理だろうというのと、あと除雪センターのところについても、地盤的には余りよろしくないというふうなお話もありました。

それで、あとはいわゆる防災面といったことからすれば、五つのうちでどこがいいかとなれば、そのうちでは潮見の市営住宅整備跡地というのが、五つの中ではいいだろうというふうに思いますが、ただいずれにしても、市と検討委員会からここがいいということで金市館跡地周辺というのがありましたけれども、これはやはり相当無理があると思います。

この辺ではなかなか合意は難しいだろうというふうに言われておりますが、やはり検討委員会の中でも狭いというのが議論になっていて、検討委員会の10月1日の議事録も読ませてもらったのですが、やっぱりこの中でも狭いということで、周辺の営業をしている部分については、もうこれはなかなか難しいかもしれないけれども、少なくとも周辺の駐車場なり、空き地となっている部分については買うことができないのかということも結構意見が出ています。しかし、これもなかなか難しいだろうと思います。

実は、ある損保会社の方に地図を見せて、どうですかと率直に専門家として、ここに市庁舎ができた場合どうなのだとということで聞いたら、「あの状況だと、少なくとも一定程度事故はふえると思います」というようなお話でした。

つまり、入り口が非常に限られていますよね、6条側からは入れないということですから、入るとすれば39号のところから、あるいは信金の本部の側から、あの狭いところから入ってくるということで、交通の渋滞なり、事故はある程度ふえるのだらうというふうな認識も伺うことができました。

そういう点では、私はやはり金市館跡地周辺というのは、相当無理があるだろうというふうに思っております。

あとはここ、現在のこの土地をどうするかということだろうと思うのですが、費用的にはどうしても移転、いわゆる引っ越しをしなければならぬという問題点があるということで、そういうデメリットはあるにしても、ここも一つの検討になるのだらうというふうには思いますが、私どもの会派の中での話では、基本はやはりどうしてもこの五つから選ぶとなれば潮見の市営住宅整備跡地だろうと、ほかに一番おすすめたという点では、私どもが独自で提案させていただいた市営球場のところ、ここに

都市計画の用途変更の問題も出ていますけれども、そういった一定の時間がかかるにしても、そういう点で合意ができるのであれば、あそこが一番適地だろうと、こんなふうな考えを持っているところです。

○近藤憲治委員長 そのほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

○永本浩子委員 一応、私たちの会派としましては、一番に考えていけないといけないのは、後世の方たちにできるだけ借金を残さず、財政的にも負担をかけない形で、コンパクトで、そして建った後も低コストで維持ができるような、そういった市役所新庁舎ができるといいねということで、本当にいろいろ5カ所を見てきて、今、松浦委員のほうから潮見の市営住宅の跡地の話もあったのですが、ただやっぱり今入っている人に出させていただいて、それを壊してからじゃないとスタートができないというふうになると、今のところ10億ほどと言われているその補助金がもらえなくなって、丸々市で借金を抱える形になってしまうということは、できればやっぱり避けたいかなということ、そしてまた市営球場にしても、今回こういうふうに都市計画の変更手続が約8カ月はかかる、それにプラスしてさまざまな住民懇談会とか、そういったことも含めていくと相当時間もかかることですし、市民会館というお話もありましたけれども、それでは市民会館を本当に壊してしまっているのかということから、またスタートをして、パブリックコメントをもらったり、その後どうするかということまで考えて、さらに解体費用がかかるということ、いろいろそういうことを考えると、なかなか実現の可能性というのは乏しいのではないかなというふうに、うちの会派では話をしたところであります。

ということで、公明クラブといたしましては、狭いのは、本当に何かもうちょっと広くならないかなという思いは確かにありますけれども、ラルズ周辺跡地ということで、進めていくべきではないかなという結論に今のところは至っております。

○近藤憲治委員長 はい、そのほかいかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 うちの会派からは、川原田副委員長と私2人ということで、この委員会に所属させてもらっています。

会派の立場ということで、私からお話をさせてもらいますが、もし私の部分で補足することがあれ

ば、川原田副委員長から補足もあるということも、前段お話しをいただいて、私から会派の考え方をお話させてもらいたいと思いますが、今、永本委員からもありました約20%の交付税による財政の支援措置は非常にありがたい話ですし、今の網走市の現状を考えますと、やっぱりこれに何とか頼りたい気持ちは確かにあるわけですが、それがためにといいことも私どもの会派としては一つ思っています。

最大限、取り組みとして、この市財政の支援措置については、努力をしていきたいという考え方をまず前段申し述べさせていただきたいと思いますが、ただ現在、議論をされていますラルズ周辺跡地については、市庁舎というのは50年、60年の市の設計です。大きなこれから核になっていく庁舎ですから、そういう意味では、今の市庁舎の建設予定地は、この委員会でも現地を見てきたときに、数多くの委員からやはり狭いねという意見が出ていたように、私どもとしては、今の状況では建設は無理だろうと思っています。

そこで考えますと、今の市有地の面積が約1,230平米ぐらいある中で、7階建てとして下に敷地が1,000平米の7,000平米を確保すると、1,000平米を建物として使うとなれば、残り230平米の中で、本当に庁舎としての機能はどうかということ、図面を見ても、私からは言いたくありませんが、本当にここに無理をして建てていいのかと、こういうふうに私どもは思っていますので、今の状態ですと建設は難しいと、こういう結論でございます。

ただ、先ほども出ていたように、市長の諮問機関であります検討委員会の中でも、隣接地の取得も意見として出ているということもお聞きをしていますから、やっぱり少なくとも、今の予定地の周辺の整備は、少なくともですよ、必要ではないかと、こういうふうに考えます。

ただ、そこで言いたいのは、そういうことになって必要だということで、市が仮に動き出すことは一ついいのですけれども、そうなりますと、今回、ラルズ周辺跡地ということ、5カ所を選定して、いろいろ比較検討しながら最終的に今の場所が適地ということで、市のほうから提案が市民にあったわけですが、その一番の根本だというふうに思いますが、土地の買収をしないで、市有地を利用したいということ。

これが大きな比較要因のネックになっていたとい

うふうに私は考えます。

そうなりますと、その考え方が、基本的な考え方が崩れると言ったら表現が悪いですが、変わることになるわけですし、そういうことを考えますと、やはり今のところに建てたいというのは、防災の拠点的な位置づけもあるという説明もいただいています。この防災の拠点という考え方もあわせて、今回比較した5カ所、この5カ所も含めた新たなやっぱり適地ということ、市のほうは再検討すべきだというふうに思います。

振り出しになるという言い方になりますけれども、基本的な考え方が変わるということは、比較がまた動くわけですから、再検討の必要があるだろうと、こんなふうに私どもの会派としては考えています。

○近藤憲治委員長 そのほかいかがでしょうか。

○石垣直樹委員 今回、市側から提案があった候補地の全ての視察をさせていただきました。

大方は皆様方と同じような意見ですが、やはり現在のこの庁舎では地震が起きたら倒壊してしまうと、その地震はいつ来るかわからない。

ひょっとしたらあすに起こるかもしれないという状況の中では、早期に国の補助金を使って、旧金市館跡地で建設すべきだというふうに考えます。

土地に関しましては狭いという問題もございますが、コンパクトにして建設費を抑えた長く使える庁舎を早急に立てるべきだと私たち会派のほうでは考えております。

○栗田政男委員 現地調査をした上で、いろいろ検討をさせていただきました。

今進めている予定地は、狭いのはもう皆さん見て御存じのとおりだと思います。

高層階の必要性が出てくるということで、理事者側の答弁を聞いていると、コスト的には全然問題ないという話ですが、いろいろと関連建設業の方にお聞きしますと、高層が高くなればなるほど地下にしっかりと深さが必要であるということですから、7階だとか、9階だとかという話を聞いていますけれども、その分、深く地下をしっかりとしなければならぬということですから、コストが同じということにはならないという見解も聞いています。

それは専門家でも、いろいろなその現実のものを見ないと何とも言えないということではあります。その辺の心配が少しあるのと、補助金ありきで

進めている今の現況がありますが、当市の今の財政状況を考えたときに、もし建てかえるとすれば、2割の補助というのは非常に有効なものであるというふうに考えます。

ですからできるならば、これも冒頭から申し上げているように、それを活用した設計を組むのがベストではないかというふうに思います。

ありきで多分進んでいる。

ラルズ跡地しかないみたいな感覚で理事者側のほうでは進んでいるような気がします。

ですからああいう議論になりますし、我々に対する説明についてもそのような形になろうかと思いません。

副市長の答弁の中にも、5年前位から庁舎の耐震化も含めて建てかえの検討には入っているということですが、ではなぜ網走高校の土地を民間に売却して、網走高校と今予定されている地域というのは、本当に1丁、2丁しか離れていない隣接地で、距離にすると100メートルあるかないかだと思いますけれども、ああいう適地、一等地を民間にほとんどただのような金額で売却をして、何の計画性もないのかなという気がしました。

これはもう売ってしまったので、今さら結果論なのですが、本当に真剣に建てかえの検討をしていたのであれば、当然、僕は網走高校の土地が新庁舎の適地ではないのかなというふうに個人的には思っていました。

そういうことも含めて、その辺の疑問はまだ消えないのですが、皆さんの意見はそれぞれ割れると思います。

一本にはできない、そういう意見もありましたけれども、やはりどこかで一本化していかないと、この先の話は議論にはならないでしょう。

せつかくこういう委員会を立ち上げているのに、ばらばらの意見構成の中でばらばらな調査、検討をしていっても、まとまったものにはならないですから、やっぱり私たちは合議機関ですから、3月に議会の中で行うのかは別にしても、何らかの合議をしていかなければならないというふうに考えています。

それで結論から言いますと、仮定として、仮定の話です。仮定として、今、市のほうで提案してる場所についての議論も進めていくべきであると思いません。

どこかの段階で当然皆さんも御存じのように、

我々が移転手続の審議をしなければならぬと、その段階で3分の2以上の賛成がなければ、庁舎を移転することはできないという現実がそこにあるわけです。

となったときに、それが今予定されているいろいろな話を総合すると、夏以降の話ではないかということなのですが、その時点で上がってきた案件が通らないということが起きたときに、ではどうするのかと、そうすると手を上げて、もう建てかえの議論も何もなしにしてしまうのかというところをすごく心配しております。

前にも申し上げましたが、基本は現庁舎の建てかえが僕は原則だと思っています。

これは、現庁舎がある場所にそれを建てかえるということは、どこの地域でもそれを行っていますから、引っ越しが2回あるとか3回あるとかというのは、それは単なる手法の手続の問題ですから、どこの自治体もみんな行っていることですし、それは立派な経済効果も発揮する事案でありますし、引っ越し一つにしても、いろいろな経済波及効果がござります。

そういうことも考えたときに、現庁舎も一つの案、ここに建てかえをするという案も並行して進めるべきではないかなというふうに思います。

意見の一致を見ないまま、何もないままそこはだめだよ、では対案はどこだよということも出さないまま進めて行って、期限切れになってしまって、2割という大切な国からの補助について手をつけられないと、それを活用できないということになってしまっただけでは、余りにももったいないと思います。

これは議論の中で皆さんとお話した中で感じているのは、建てかえることは、今、石垣委員がおっしゃったように、この庁舎は震度5以上が来たら間違いなく潰れるのだよということです。

これはもう皆さんの認識だと思うのですね。

それは当たり前のお話なので、となれば早いうちに、できるだけ早いうちに建てかえというか新しい庁舎が必要なだろうと思います。

その認識はみんな共通のものがあるのだと思いますので、それを考えたときに、当市の財政状況を考えたときに、今言われているように50億になるのか、これだけ建設費が高騰していると僕は50億では到底建たないと思いますけれども、まだまだ膨らんでいくのだろうなと思いますので、そういうことも考えながら、もう1点大事なことは、これも皆さん

がおっしゃっているとおり人口減少に向かう中で、必要最小のものを今つくらないとだめだということです。

結局は借金しなければならないので、それは市民、これからの若い人たちがそれを負担していくのです。そうなったときに、将来を見越して、今ちょっと窮屈だけれども将来はがらになるよということが目に見えているので、これはコストというのは本当にできるだけ圧縮をして、少ない財政負担でやるべきではないかなと思います。

私としては現地も一つの案として進行しながら、ここの今私たちが話しているこの庁舎も、建てかえ議論も、並行して進めていくのがベストな選択ではないかなというふうに考えます。

○近藤憲治委員長 はい、ありがとうございます。
暫時休憩いたします。

午後 1 時 36 分休憩

午後 2 時 02 分再開

○近藤憲治委員長 それでは、再開いたします。

休憩中、種々御議論をいただきました。

その中で、用地についてはまださまざまな展開がある状況でございますので、引き続き建設用地については調査を進めてまいります。

あわせて、複数の委員から御発言いただきましたが、機能面での議論も 3 月の中間報告に向けて深めていく必要がございますので、用地の調査とは別立てで機能面、また留意すべき点についての議論も深めさせていただきたいというふうに考えていますがよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

はい、それではそのように進めさせていただきます。

スケジュール感につきましては、また後ほど御相談をさせていただきます。

続きまして、4 番の若年層 20 代から 40 代の市民向けアンケートの実施素案についてでございます。

こちらは、前回の委員会の際に御提案をいただいております松浦委員、永本委員から見解をお示しくださいということをお願いしておりますので、松浦委員からは資料の作成もいただいておりますが、丁度開会から 1 時間たっているので、一旦休憩をして、その間に資料を配付します。

それでは暫時休憩します。

午後 2 時 03 分休憩

午後 2 時 10 分再開

○近藤憲治委員長 それでは再開をいたします。

続きまして 4 番目の若年層 20 代から 40 歳代の市民向けアンケートの実施素案についてでございます。

こちらにつきましては松浦委員、永本委員に対象、どういった手法、どういった質問項目で行うかという部分の素案をお示しいただいて、議論を深めていただくということになっておりますので、よろしくお願いたします。

○松浦敏司委員 あの後、労働組合の連合のほうに行って相談してきました。

20 代までは入れなかったのですが、「30 代、40 代の方にアンケートをしたいと思うのですが」ということで検討していただいた結果、「もしそのアンケートをするのであれば協力はできます」ということで、「対象はどれくらいいますか」というふうに聞くと、「30 代 40 代ということであれば、およそ 300 人ぐらいだろう」というふうなお話でした。

とりあえず連合の意見としては、「もし、そういった調査をするのであれば協力します」というお話でしたので、もしこの委員会がいいというふうになれば、実施できるかなというふうに思いました。

それで、私なりにアンケートをちょっとつくってみたのですが、一つには、市のほうでは新庁舎建設について来年度中というスケジュールで進められているということ、それで今示されているのが、五つありますということを示して、そして市としては金市館ビル跡地周辺が適地だというふうに判断しているということです。

そして住民説明会や住民懇談会で説明などもしているということで、そこで残念だけれども、なかなか 30 代、40 代の市民の声を聞くことができていないというのが現状だということで、新庁舎建設に当たって、そういった皆さんにアンケートを実施したいというようなことで、男性、女性、中には答えたくないという人もいますので、そんなふうにして、年代と住まいの地域、これは市のほうでもやったアンケートのお住まいの区分と同じです。

具体的なアンケートの問いですけれども、一つには新庁舎建設の候補地について 5 カ所上がっているけれども、これについて知っていますかということで、該当するものに丸をということで、知っていた、知らなかったということです。

あとは裏面ですが、二つ目に建設地について、市が金市館跡地周辺が適地だと市民に説明しているこ

とを知っていますかということで、知っていた、知らなかったというもの。

あと三つ目には、新庁舎の建設地についてまだ決まっていなくても、そのことについて御存じですかということで、答えとしては、金市館跡地周辺に決まっていると思っていたとか、あるいは知っていた、知らなかったというもの。

四つ目に、新庁舎建設候補地が5カ所あるけれども、どこが適地だと思いますかということで五つ書きました。

これは、あくまでも私の頭の中で考えたので、ほかにも多分、いろいろ聞くことができるのだろと思えますけれども、それはこの特別委員会の中でもアンケートを実施するという、そういう方向がいいというふうになれば、また知恵を出していただいて、さらに膨らんで生かしていけばいいかなというふうに思っているところです。

○永本浩子委員 私のほうからも、30代、40代の若手のメンバーのアンケートが必要なのではないかなということをおっしゃっていただいていたのですが、ちょっときょう配られた、この市が行ったアンケート結果を少し事前にちょっと教えていただきましたところ、30代、40代をプラスすると、30代が9.5%、40代が15.2%で合計して24.7%、これに20代を入れると31.4%ということで、もっと若い10代も含めるともう少しになりますけれども、約3割の方が一応アンケートに答えていただいているということで、網走の年齢の構成からすると、ある程度はとれたのかなということがわかったのが一つと、あともう一つ私としてはこの市のほうで30代、40代をもうちょっと力を入れて意見を聞いてもらいたいという思いがあったのですが、特別委員会の中で配ったり、集めて分析したりするというのもやらなければならないということで、そしてアンケート結果の正当性というか、人口の5%というようなことを言われてしまうと、ちょっとなかなか特別委員会だけでやるというのは非常に難しくなるのかなというのを感じたところです。

それから、聞きたかったのはやっぱり松浦委員と同じで、この用地はどこを皆さんが望んでいるのかということ、それに合わせて機能面ということもぜひ聞きたかったのですが、これまでこの特別委員会をやってきて、全員で用地もそれぞれ見て、市のほうから各候補地の説明も受けて、あらゆる角度から検討し、質問をしたりとかしてもなかなか決

まらないのが現状で、要するに例えばラルズ跡地のメリット、デメリット、ほかの潮見の市営団地のところのメリット、デメリットとか、そういったことの説明が何もない中で、このどこがいいですかだけのアンケートをとってしまって、果たしてそれが本当にいい意味のアンケートになるのかなというのは、ちょっと会派で話し合っても、ちょっとそれが疑問として出てきまして、結果としては、今回この市でとってくれたアンケートの中に30代、40代、それと20代も含めると3割以上の方の意見が反映されているということと、もしできるのであれば、3月の中間報告がある程度まとまった段階で、議会報告会のような形になるかどうかあれなのですけれども、こちらがある程度この特別委員会として、こんなことを話し合ってきた、そしてこんな内容がまとまっているけれども、これに対してはどうでしょうかというこちら側のたたき台をつくった上で、それに対する御意見をいただくというほうが、もしかしたらいいのかもしれないなということで、そのときは、例えば市役所を使う側の人と迎える側の市の職員の方たちとか、立場を変えた方たちとの意見交換とか、こちらから出向いて行ってとか、いろいろな形が考えられると思うのですけれども、ちょっと今の段階でのこのアンケートをとっても、もしかしたら余り意味のあるものにはならないのではないかなというふうな結論になりました。

○近藤憲治委員長 それではお二方からの御提案、御発言いただいた部分も含めて、若年層の市民向けアンケートの実施について、改めて各委員の皆様から御意見を承りたいと思いますがいかがでしょうか。実施の必要性、それから中身含めて、御発言いただければと思います。

永本委員の発言は、中間報告がある程度まとまった段階で、直接対話をするような報告会なり、説明会なり、意見交換会なりを行ってはどうかという御提案でありました。

いかがでしょうか。

○川原田英世副委員長 永本委員の先ほどの案はすごくいいと思いますが、問題はどういうふうに声かけをしていくかだと思うのですが、一度青年団体連合会にでも投げかけてみて、時期は3月ぐらいですね。そういうふうにしたらいいいのかなというふうに思います。

あとアンケートのペーパーのやつは、これはぜひ進めるべきだなと思います。

まあ、いろいろ整理は必要かと思えますけれども、そういうふうに僕は思います。

○山田庫司郎委員 アンケートには余り積極的ではなかった立場なのですけれども、SNSやホームページに意見を寄せていただくぐらいでいいかなと言っていた立場なのですけれども、今回これを見ますと、建設予定地がどこかということに絞った中でのアンケートになっているのですが、例えば先ほど永本委員が言われていたのですけれども、20%の交付税がこうだよとかまたなれば、どういうふうになるのかというのはまたいろいろな要素というのはあるのです。

だから全部そういうのを捨てて、どこがいいのかというふうに聞くというのであれば、非常にストレートでわかりやすいのだけれども、その辺がどうなのかなのです。

あんまりごちゃごちゃ書いて、こういう状況もありますというふうに書いてしまうと、アンケートも意味がなくなってしまうし、ただ5カ所の中のどこがいいですかとストレートに聞くという手も一つあるのかもしれないし、どうなのでしょう…

それで、市がとったのは諮問委員会である場所が設定になりましたという前提で、どんな建物がいいですかということを基本にアンケートをとっているのだよね。

ただ、記述の部分がありますから、そこにいろいろなことを書いた方もいらっしゃるようだけれども、基本はどんな建物を求めていますかというアンケート内容なのだけれども、特別委員会として予定地がどこかというところのアンケートをとったとしてどうなのか、例えば、例えばだよ、この結果を大事にしましょうということで、アンケートというのはやっぱり参考にしながらも大事にしていくというのが前提だから、思いがけないような結果が出たら、それはそれでも対応なのかもしれないけれども、個々に皆さん意見が違うわけだから、若い層で、今言われたのは連合の皆さんということの一つの話だけれども、ほかにまた広げるのもあるのだけれども、とる中で、20代、30代、40代の方たちの意見を聞くのもいいのだけれども、きちっとした情報提供をしなくていいのかなと、ちょっと思うところがあるのだけれどもね…

○松浦敏司委員 実は、私が個人として、このアンケートをつくる上では、市のこのアンケート結果は出ていないのですよ。

だから非常に悩みました。

今、山田委員が言われたように、いろいろ書き過ぎると誘導するというようなことにもつながったり、混乱するというにつながったり、それでとりあえず今この特別委員会の中で議論の中心は場所です。

これが問題で、私もいろいろ市民から聞くと、「もう金市館周辺跡地で決まっているのでしょうか」という市民が圧倒的に多いものですから、それは違うのだということを知ってもらうという素直な気持ちで、五つの案が今示されているけれども、五つ示されている中でどこがいいですかということで、あくまでも素直な気持ちで聞くほうがいいのかというふうなことで、私なりにつくったのですけれども、中身はもし実施するとすれば、皆さんから知恵を出してもらって、ほかにもこういうのを入れるべきだというならば、当然入れるべきだし、これは聞く必要がないとなればそれは削って、これはあくまでも私の私案ですから、そんなふうに考えていただいて、実施する、しないについても、皆さんの中で決めていただければというふうに思います。

○永本浩子委員 私も本当に、単純にもうちょっと若い人の意見を聞いてもらいたいという思いで、当初から松浦委員もそうですけれども、言ってきたのですけれども、やっぱりせっかくこうやっていただいたのを、ではそれをどう生かすのかということを考えてときに、何かちょっと無責任になってしまうのかなという思いもあったり、そして私も5カ所の候補地を自分なりに見て回ってきていたので、現地の視察はいいかなと思ったのですけれども、でも皆さんで現地視察をして、市のほうの職員の説明もしていただいて、説明してもらって初めて、例えば私も最初この現庁舎のところでもいいかなとも思ったりもしていたのですけれども、擁壁の問題だとか、そんなことも初めて聞いたりとか、除雪センターのところにオビオショップ川が流れているというようなこととかも、やっぱりそういった情報がわからないままに、アンケートをとったその数字をどう生かすのかというふうになると、何かちょっとそこのところですごく正直悩んでしまって、せっかく答えてくれた方に対しても、きちん生かすことができなかつたら失礼にもなってしまうし、果たしてどこまでのこの5カ所の候補地のことがわかって選んでもらえるのかということも非常に難しいかなということで、ちょっと今回は違う形のほうがより良

いのではないかなというふうに思った次第です。

○近藤憲治委員長 暫時休憩いたします。

午後2時26分休憩

午後2時31分再開

○近藤憲治委員長 それでは再開いたします。

この4番の若年層の市民向けアンケートの実施素案についてでございますが、休憩中も種々御議論いただきましたけれども、また引き続き実施の内容を含めて御検討をいただくという形で進めさせていただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

最後に5番その他でございますが、前回の特別委員会で御提案をいただきました美幌町役場で新たな庁舎を建設する際に利用されております低環境負荷の設備導入に際しての補助金の利用について、視察を行ってはどうかという御発言がございまして、各委員の皆様にお持ち帰りいただいて御検討をお願いしますということで本日を迎えておりますので、その見解について、それぞれお示しいただきたいと思っております。

いかがでしょうか。

○山田庫司郎委員 ぜひ事業はまた違って、補助とそれから将来的にやっぱり管理含めてメンテが大変だという話も聞いていますけれども、やっぱり温暖化の課題も含めて、エネルギーをやっぱりどういう形で消費していくかということも、美幌の場合は考慮しながら建てているというふうに聞いていますから、これから建てる時の位置のことは別にして、庁舎のあり方も含めて、私はいろいろな意味で参考になるかなというふうに思いますので、もし委員会として美幌のほうの御了解をもらえるのであれば、建設途中とはいえどこまでできているのかわからないのですが、説明を1回聞くのも大事かなと思います。

○松浦敏司委員 はい、私も一度見てみる必要があると思います。

今、山田委員も言われたように環境問題というのは、今COP25もやられていますけれども、今は若者を中心に環境問題というのも相当注目を集めているという点でもありますので、今後の網走市のあり方という点でも、やはりかなり参考になるのだらうというふうに思いますので、一度、相手方の都合も聞きながら、視察するのがいいのではないかと思います。

○立崎聡一委員 美幌町役場の話なのですが、今建設中ということで、今視察に行っても、後々は参考にはなるのかもしれないですけども、現状、網走市に対して、それが本当に役に立たないとは思わないのですけれども、必要性が余り感じられないのですよね。

そこで、補助のZEBをどういうふうに美幌町で取り入れたのかということは聞けるとは思うのですけれども、でも実際建ってみないと、建設コストについては別にいいのですけれども、そのあとのメンテだとかいろいろなものというのは実際に動いてみないとわからないのではないかなと思うので、そこは余り必要性を感じないと僕は思います。

○永本浩子委員 一応、私も美幌町の議員さんをお願いして、美幌の庁舎の資料は全ていただいているのです。

美幌は地熱を利用したという形でこのZEBで手を挙げて、それが採用になって、補助金がもらえることにはなったのですけれども、網走に当てはめたときに、なかなかそういう角度も難しいかなとは正直思っているのですね。

ただ、近くでもありますし、これから検討する機能面とかについてもいろいろお話を伺えれば、参考になることもあるかと思うので、もし向こうが受け入れてくれるのであれば、話を聞いてみるのはいいのではないかなと思っています。

○栗田政男委員 せっかくですから、ぜひ見させていただいて、使える、使えないはその後で検討すればいい話ですから、近場にありますが、我々は庁舎の建てかえを真剣に検討しているのです、向こうは着工しているということですから、進捗状況も含めて非常に大切です、またとないチャンスではあるかと思っております。

一つの考え方としてSDGsに基づいた根本がこれからの全てのことに絡んでくるというのが常識ですから、それを考えたときに、環境面でボイラー一つにしても地熱ヒートポンプ方式、バイオマスボイラーの設置等も当然これから検討していくべきことなので、皆さんも御存じのように、流氷は近い将来なくなるという発表があつてショックを受けているのですが、その反面、北見ではワインができる環境になりつつあります。

そんなことも含めながら、悪い事ばかりでもないのかなど、その時代、時代にしっかり対応すべきということから考えても、持続可能な目標というこ

とはしっかり持ちながら進めていければなというふうに思っていますので、ぜひともやるべきだと思います。

○近藤憲治委員長 はい、それでは相手方もありますけれども、行ったほうが良いという委員の方が大方ですので、立崎委員もよろしいですか。

○山田庫司郎委員 ごめんなさいね。

今の段階ではまだ見る必要がないかなということなのだけでも、このはしりは補助はどのようなものがあるのかということからの動きなのですが、例えば今の20%の話が、これを見てこれはいいねと、それから栗田委員から出たように、これからの将来というのは、こういう形で庁舎も含めてやっていかなければならないというふうに、もし国がなっていけば、そうすれば美幌の事業もやってみようじゃないかというふうになるかどうか、それは僕は可能性はわかりません。

それは別にして、これから建てようとしている建物に、何かそういうことを見ることによって、こういう機能をつけてもいいのではないか、これをやってみようということもSDGsの部分も含めて、立崎委員も何か「うん」と言ってくれそうなので、ぜひ理解をしてくれれば、皆さんで行ってくるのも、まあ相手があることですから、相手にだめと言われると困りますけれどもね。

○立崎聡一委員 まあこれからのことなので、それを見ることに関しては、非常に重要なことでもあるのかもしれませんが、見たからやっぱりだめだったというのも、これは仕方ないことなのでしょうと思いますけれども、まあ今回は行くことに関しては近いですから、遠いところなら別にそうは言わないですけれども、一応皆さんの御意見に賛同はします。

○近藤憲治委員長 相手方がありますので、一応調整と言いますか打診はしてみますが、今はこちら側の見解のみでございますので、またこれは追って調整をさせていただいて、改めて皆さんに御報告をさせていただきたいと思いますが、美幌町役場には視察を行う方向でよろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

はい、それではそのようにさせていただきます。

あと日程等も相手方との調整の中でいろいろと出てくるかと思しますので、そこは正副で調整させていただいてよろしいですか。

ちょっと年末年始も挟みますので、なかなか直ぐ

にというのも難しいそうではあるのですけれども。

(「はい」と呼ぶ者あり)

はい、それではそのようにさせていただきます。

その他ございますでしょうか。

○山田庫司郎委員 先ほど会派という表現がいいか、委員としての立場でいろいろな考え方の発言を最初にさせてもらいました。

これは中間報告に向けてということで聞いていますから、3月の段階では、またそのときに変わっている要素もあるので、流れが変わってくれば、だからこれを例えば理事者に伝えていくのか。

ここで話したことというのは、理事者のほうにわかってくるのか。

その辺の流れがちょっとわからないのですけれども。

○近藤憲治委員長 暫時休憩いたします。

午後2時40分休憩

午後2時45分再開

○近藤憲治委員長 再開いたします。

理事者とのやりとりをという部分でございましたが、次回、年明けの設定になるかとは思いますが、本日配付をさせていただいたアンケートの結果を読み込んでいただいて、その上で理事者との意見交換を行っていただきたいと思っておりますので、またその際に山田委員は先ほど発言された部分を確認していただくことも可能かと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その他ございますでしょうか。

○川原田英世副委員長 2点ほどあるのですけれども、1点目は都市計画変更手続のペーパーをいただいたのですが、ちょっとわからない。

わからないのが1番初めのところで、庁舎建設の位置、規模、まあ基本構想が決まってからのスケジュールになっているということであれば、これだけを見ると国の補助に間に合うのではないのかという気がするのですよね。

なのでちょっとよくわからない、説明をいただく必要があると思います。

○近藤憲治委員長 暫時休憩をします。

午後2時46分休憩

午後2時48分再開

○近藤憲治委員長 再開いたします。

ただいま川原田副委員長から、資料要求いたしました都市計画の変更手続のペーパーに記載の内容、詳細な手続論について、調査を行いたい旨の発言が

ございましたが、他の委員の皆さんはいかがでしょうか。

合意をいただければ調査を実施するという事にいたしますがいかがですか。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、内容についての調査を進めるということにいたします。

○川原田英世副委員長 もう1点なのですが、このアンケートの部分で、次回説明を求めていくということなのですが、これもアンケートを答えた側からもいろいろ意見をいただいたのです。

今、僕もこれをチェックをつけながら見ていたのですが、ほとんど今は反対の意見が多い、高台にという意見が1番多いのですよね。

集約されているいろいろ整理されているのですが、この集約を行っているのはプロポーザルを受けている会社のほうで行っているということですね。

担当課に聞いても、やっぱりなかなか答えることができない、答えることができないというかわからないところがあるので、やっぱりプロポーザルを受けている企業は、そこはちゃんと掌握してやっているというふうに聞いているところです。

また、若い方との意見交換会もこの前行ったということなのですが、そのグループの中には、1グループに1人ずつ、そのプロポーザルを受けた会社の方が入って進めていたということで、実際に市民の意見を聞く段階でも、プロポーザルを受けている側が実際に運営しているということだということですから、もし可能であれば、この特別委員会の場にもプロポーザルを受けている会社側の方にも来ていただいたほうが、僕はいいのかなという気はしているのですが、それも同意がいただければ、そういう機会があってもいいかなというふうに思うのですが、どうもいかがでしょうか。

これは、そもそもそういうことが可能なのかもともかかわってきますけれども。

○近藤憲治委員長 暫時休憩いたします。

午後2時50分休憩

午後2時58分再開

○近藤憲治委員長 それでは再開いたします。

休憩中種々御議論いただきましたけれども、ただいま川原田副委員長から御発言いただいた部分につきましては、担当課と議論を深めていただくという形で整理をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

その他、ございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

はい、なきようですので、これもちまして新庁舎建設特別委員会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

午後2時58分閉会